

大学と共に歩む 横浜の教員養成



横浜市は、大学と連携し、
教員養成の質の向上を図ります。

教員養成の充実のために、横浜市と大学等が連携し、
「横浜市大学連携・協働協議会」を通じて、様々な取組を構築してきました。
その概要を紹介します。

横浜市は、教員の養成及び本市教員の資質・能力の向上に関する協定を52の大学と締結しています。

[平成29年度時点]

また、横浜市大学連携・協働協議会を設置し、上記の大学の教職員、本市の全校種の学校代表、教育委員会事務局が参加し、連携・協働して行う教員の養成・育成に関する様々な事項について協議を行っています。

※ 本リーフレットでは大学、大学院、短期大学、高等専門学校を「大学」と表記します。

※ 教育実習、養護実習、栄養教育実習を「教育実習」と表記します。

横浜市は、大学と連携し、教員養成



A 学校体験活動の充実

可能な限り、教育実習や着任前の学校体験活動を推奨しています。

【取組1】教員の養成を目的とした、よこはま教育実践ボランティアの実施

【取組2】大学が実施する学校インターンシップ等への協力

【取組3】授業公開や学校見学等が可能な本市学校の情報を Web で公開

B 円滑な教育実習の受入

教育実習受入システムは、本市学校や連携大学の意見を反映し構築しています。

【取組4】大学、本市学校の実情に応じた多様で柔軟なシステムの構築

【取組5】教育実習受入から実施までの様々な意見をフィードバック

C 教育実習前の連携

大学と本市が連携・協働し、教育実習に向けての準備を行います。

【取組6】教育実習前の大学、本市学校間の連携の仕組みの構築

大学での授業

介護等体験

教育実習の申請の指導

教育実習への申請

教育実習前の学校体験活動(学校インターンシップ、学校ボランティア等)

A 学校体験活動の充実

可能な限り、教育実習や着任前の学校体験活動^{*}を推奨しています。

*学校体験活動…教員を目指す学生が、本市学校での実践を見学したり体験したりすること。学校インターンシップ、学校ボランティア等

取組 1 教員の養成を目的とした、「よこはま教育実践ボランティア」の実施

学校インターンシップの考え方に近いボランティアです。学校インターンシップを大学のカリキュラムに取り入れることが難しい場合や、学校インターンシップ前後の補完として御利用ください。

よこはま教育実践ボランティアの特徴

- 1 学生がどの学校で学校体験活動しているかを大学が把握でき、活動終了時には活動報告書を学生が大学に提出します。そのため、活動後、大学でのフィードバックも可能です。また、実施記録書を学生に発行します。
- 2 Web 上で「最寄り駅」「実施日時」「活動内容」等が確認できるため、学生自身の都合に合わせた活動を希望することができます。短期の活動もあるため、忙しい方でも利用がしやすいです。
- 3 学校情報に「学生に身に付けさせたい力」を明記しています。

取組 2 大学が実施する学校インターンシップ等への協力

本市学校での学校インターンシップを希望する場合には、教育委員会事務局が窓口になり、受入校を紹介するなど、円滑に実施できるようサポートします。

大学と本市各学校との直接の関係の中で実施することも可能です。

取組 3 授業公開や学校見学等が可能な本市学校の情報をWebで公開

大学教員引率の下、学生に本市学校の見学や体験を行わせたい場合、Web 上で協力できる本市学校情報を公開していますので御活用ください。

本市学校の公開情報 : 横浜市教育センター Web ページ→大学連携→相互交流
よこはま教育実践ボランティア : 横浜市教育センター Web ページ→大学連携→よこはま教育実践ボランティア
<http://www.edu.city.yokohama.jp/tr/ky/k-center/daigakurenkei.html>



連携大学の学生へのアンケート結果

問：「どんな経験が教育実習で役に立ったか」

答：第 1 位 大学の授業 30%^{*}

第 2 位 学校体験活動 23%^{*}

教育実習までに学校体験活動を行った学生 72%^{*}

成果は、右図のとおり。

学校体験活動を行うことで、

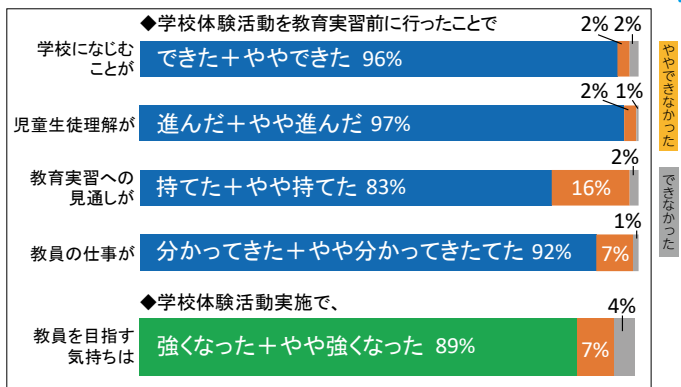
教員を目指す気持ちが強くなった学生 89%^{*}

→学校体験活動が、教員を目指すきっかけとなっている。

*本市で教育実習を行った学生のデータ

学校体験活動を行うメリット

- 教育実習前…早い時期に自身の適性を判断できる。教育実習後…実習後の発展的な取組が期待できる。
- 教員の仕事や児童生徒に対する理解が深まる。
- 教育実習や着任に向けて円滑な接続ができる。
- 教育実習…集団指導がメイン。学校体験活動…個々の児童生徒と関わる機会が多い。
→様々な児童生徒の状況を理解することができ、着任後の個に応じた対応の場面にも役立つ。



B 円滑な教育実習の受入

教育実習受入システムは、本市学校や連携大学の意見を反映し構築しています。

取組 4 大学、本市学校^{※1}の実情に応じた多様で柔軟なシステムの構築

※1 小・中・義務教育学校が対象
※2 連携大学のみ利用可

内諾方式と一括方式^{※2}を各大学・各本市学校がそれぞれ選択できます。(併用可)

内諾方式…学生が直接本市学校に申請する方法 校長の判断で受入を決定します。

一括方式…大学が一括して教育委員会事務局に申請する方法 本市の教員を目指す学生を受入候補とします。

★ 一括方式は、本市の教員を目指す学生を一人でも多く受け入れられるように、本市の各学校が受入枠を増やし実施しています。それにより、本市教員を目指しているが、母校が本市学校以外の学生等も受入が可能になりました。その他、実施時期の選択、追加募集など、きめ細やかな対応を行っています。

システム構築前(平成26年度実施)に比べ、構築後(平成27年度実施)は…

本市学校の受入可能人数…**53%増** 申請者数…**11%増** (平成26年度比)



詳細はガイドを御覧ください

取組 5 教育実習受入から実施までの様々な意見をフィードバック

システムガイドには、大学、本市学校からの意見や、過去の事例を踏まえた留意点を掲載しています。

また、学生用システムガイドには、本市学校への連絡時や面接時の留意点、実習中の注意事項等も記載しています。

C 教育実習前の連携

大学と本市が連携・協働し、教育実習に向けての準備を行います。

取組 6 教育実習前の大学、本市学校^{※3}間の連携の仕組みの構築

※3 小・中・義務教育学校が対象

大学での学修と教育実習が円滑に接続できるよう、次の3つの取組を実施します。

「教育実習を行うまでに身に付けてほしいこと」を提示

- 1 教育実習を行うまでに身に付けてほしいことを示すことで、本市での教育実習までに行っておくべきことが明確になり、円滑な教育実習の実施が見込まれます。

「面接用志願書」を本市学校へ提出 (一括方式・追加募集の学生のみ校長面接時に提出)

- 2 面接用志願書を作成することで、学生は面接に向けての気持ちを整理することができます。また、本市学校にとっても、面接の問答がしやすくなり、学生の状況を把握しやすくなります。

「横浜市教育実習連絡カード」を本市学校へ提出 (本市で教育実習を行う全学生が本市学校での事前打合せの前に提出)

- 3 学生が本市学校指導教員に伝えたいことを教育実習前に伝えることができます。また、大学で学んだことや学生の状況を、本市指導教員が実習前に把握できることで、学生の状況を踏まえた実習計画を立案することができるようになります。

上記の詳細は、次の「教育実習システムガイド」を御覧ください。

教育実習システムガイド：横浜市教育センター Web ページ→大学連携→教育実習

<http://www.edu.city.yokohama.jp/tr/ky/k-center/daigakurenkei.html>



D 教育実習の充実

効果的・効率的な教育実習を実施し、魅力的な教員を養成します。

取組 7 効果的な指導と評価・評定の妥当性の向上

① 教育実習サポートガイドの活用(本市学校用)

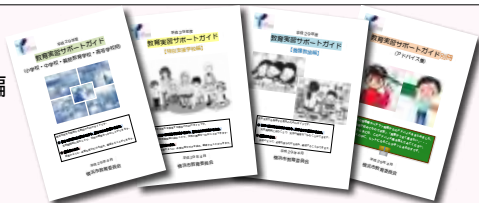
本市教員が、自らも学びながら効果的に実習生を指導していく手立てを記した「教育実習サポートガイド」を作成しました。

実習指導教員の経験年数… **5年～10年**が最多

教育実習の指導回数… **初めて指導する教員が約40%**

全4冊発行

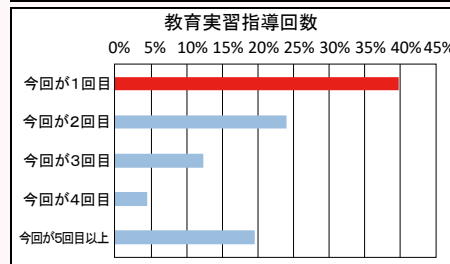
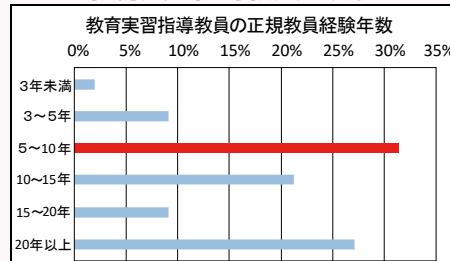
- ・サポートガイド・特別支援学校編
- ・養護教諭編・アドバイス集



教育実習サポートガイド：横浜市教育センター Web ページ→大学連携→教育実習
<http://www.edu.city.yokohama.jp/tr/ky/k-center/daigakurenkei.html>



教育実習指導教員の現状



〔教育実習サポートガイドの充実に向けたアンケート〕(H29.1.31) から

② 「横浜市教育実習評価票」※の使用

本市で小・中・義務教育学校の教諭及び養護教諭の教育実習は「横浜市教育実習評価票」を使用します。(平成30年4月時点)

統一書式を使用することで、評価・評定の妥当性の向上が見込まれます。また、指導内容が明確化・共通化することで、指導と評価の一体化が図れ、どの本市学校も同水準の実習を行うことが可能になります。

※本市で小・中・義務教育学校の教育実習(栄養教諭を除く)を行う全大学が対象

評価項目	評価規準
教職の素養	・教職員の助言などに耳を傾け、常に改善を心がけ実践に結びつけている。 ・教員としての立場をわきまえ行動している。 ・相手の思いや考えを汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、積極的に協力しながら活動している。
児童生徒指導	・(授業や様々な教育活動の中で)児童生徒に向き合い、集団や個に応じた対応を行っている。
授業力 (PLAN)	・学習指導要領や学校の指導・評価計画を理解し、明確な目標を立て、児童生徒の実態を踏まえた授業計画を立案している。
授業力 (DO)	・学習指導に必要な基礎的技術等 [※] が身に付いていて、児童生徒が主体的に学ぶための授業を実践している。 ※ 話法、板書、学習形態、授業展開及び環境構成、適切な場面での情報機器の活用 等
学級経営・様々な教育活動への取組状況	・学級担任の役割や職務内容、及び様々な教育活動 [※] について理解し、その中で自分のできることを実践している。 ※ 特別活動、部活動 等

取組 8 柔軟で効率的な教育実習の推進

① 各大学の実習日誌に PC 入力・貼付け (本市学校及び本市で教育実習を行う全大学が任意で利用可)

実習日誌の学校記入欄に PC 入力・貼付けを可能とし、本市学校教員の負担軽減を図ります。また、PC の使用が可能な状態で、かつ、大学が許可した場合、学生の日々の活動欄も PC 入力・貼付けを可能とします。それにより、内容の質を落とすことなく記入時間が短縮され、その分活動の時間として有効に利用することができます。

② 学校全体で実施する教育実習の推進

指導教員一人に負担がかからないよう、学校全体が分担して行う教育実習の事例を紹介し、組織的な教育実習を推進していきます。

③ 学校体験活動を利用した、実習内容の分散化を可能に

学校体験活動時に、授業の参観、講話の受講、部活動の体験等を実施することで、実習期間にゆとりができ、教科指導等や学級経営をより深く学ぶことが可能になります。

取組 9 大学、教育委員会、本市学校間の連絡体制の充実

学生と本市学校の双方にとって、より実りのある教育実習となるよう、互いの連絡担当者を明確にし、大学と本市学校の意思の疎通を充実させ、必要に応じて迅速な対応ができるようにします。

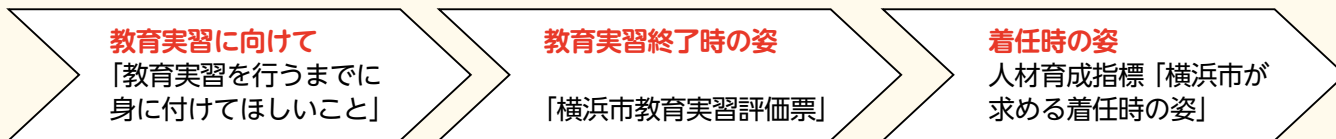
トラブルの未然防止にもつながります。

E 着任に向けて

安心して着任できるよう段階的に目標の姿を提示しています。

取組 10 人材育成指標に「横浜市が求める着任時の姿」を明記

本市の教員を目指す人が、着任時までには何を身に付ければよいかを示し、円滑に着任できるようにします。



さらに本市では、円滑な着任に向けてよこはま教師塾「アイ・カレッジ」、採用前研修などを実施しています。

採用前研修	採用前に学校を想定した研修を受講すること、また、同期の仲間たちと交流することを通して、横浜市の教職員として安心して自覚を持って着任できるようにします。
--------------	---

「横浜市 教員のキャリアステージにおける人材育成指標」で示す着任時の姿

平成 22 年 2 月策定
平成 29 年 3 月改訂版

資質・能力		横浜市が求める着任時の姿	
教職の素養	自己研鑽・探究力	・常に自己研鑽に努め、探究心をもって自主的に学び続ける。	
	情熱・教育的愛情	・横浜を愛し、教職への誇りと強い情熱、児童生徒への愛情をもつ。	
	使命感・責任感	・教育公務員として、自己の崇高な使命を深く自覚し、法令及び「横浜市公立学校教職員行動基準」を遵守する。	
	人間性・社会性	・豊かな人間性や広い視野・高い人権感覚をもち、児童生徒や教職員・保護者・地域等との信頼関係を構築する。	
	コミュニケーション	・周囲の状況や相手の思いや考えを汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、積極的に助け合い支え合う。	
教職専門性	児童生徒指導	児童生徒理解	・児童生徒理解の意義や重要性を理解し、一人ひとりに積極的に向き合おうとしている。
		児童生徒指導	・個や集団を指導するための手立てを理解し、実践しようとしている。
	インクルーシブ教育	多様性への理解とインクルーシブ教育システムの構築	・インクルーシブ教育の理念と基本的な考え方を理解している。
		特別支援教育	・特別支援教育に関わる指導・支援の計画や合理的配慮について理解している。
	授業力	実態把握と目標の明確化 (PLAN)	・学習指導要領を理解し、児童生徒の実態把握の必要性を認識し、目標を明確にして立案しようとしている。
		指導と評価の計画立案 (PLAN)	・評価全般の意義及び、評価規準、指導・評価計画の意味を理解し、立案しようとしている。
		指導技術、指導形態の工夫 (PLAN)	・板書や発問等の基本的な指導技術を身に付け、実践しようとしている。
		授業中の指導と評価 (DO)	・「指導と評価の一体化」の意味を理解し、児童生徒の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。
		省察及び改善 (CHECK, ACTION)	・授業改善の意義や授業を分析し改善する手立てを理解し、実践しようとしている。
		研究の推進と研究体制構築	・研究会や研修会に積極的に参加する意義を理解し、実践しようとしている。
	マネジメント力	学級経営・学校経営ビジョンの構築	・学級担任の役割と職務内容及び、学校組織・運営や校務分掌を理解し、自分にできることを実践しようとしている。
		人材育成 (メンターチーム等の活動)	・学び続けることの意義を理解し、アドバイスに耳を傾け、自らを改善しようとしている。
		資源 (人・もの・情報・時間・資金等) の活用	・学校内外の資源の種類やその活用の目的・意義を理解し、実践しようとしている。
		危機管理	・危機管理の重要性を理解し、危機を察知した場合に、素早い行動をとろうとしている。
	連携・協働力	同僚とチームでの対応	・組織の一員としての自分の役割を理解し、同僚と協力して対応しようとしている。
		保護者や他の組織等との連携・協働	・保護者連携の重要性を理解し、保護者や地域と積極的に関わろうとしている。

人材育成指標の最新版、養護教諭版、学校栄養職員・栄養教諭版はこちら

横浜市 教員のキャリアステージにおける人材育成指標：横浜市教育センター Web トップページ
<http://www.edu.city.yokohama.jp/tr/ky/k-center/>



の質の向上を図ります。

D 教育実習の充実

効果的・効率的な教育実習を実施し、魅力的な教員を養成します。

【取組7】効果的な指導と評価・評定の妥当性の向上

【取組8】柔軟で効率的な教育実習の推進

【取組9】大学、教育委員会、本市学校間の連絡体制の充実



E 着任に向けて

安心して着任できるよう段階的に目標の姿を提示しています。

【取組10】人材育成指標に「横浜市が求める着任時の姿」を明記

本市教員は、
着任後も
学び続けます。

着任

本市 採用前研修

教育実習

採用試験

教職実践演習

教育実習後の指導

教育実習後の学校体験活動

相互交流の取組

連携大学と本市が、相互に協力・支援し合うことで、教員養成の質、及び、本市学校における教員の資質・能力の向上を図ります。

【取組 11】

相互交流システムの構築

連携大学に Web で公開

- ①大学への公開が可能な本市学校情報
- ②大学に支援できる本市学校教員情報

本市学校に公開

- ①本市学校に支援できる大学教員情報
- ②児童生徒・教員向けのオープン講座情報

【取組 12】

大学連携だよりの発行 様々な相互交流事例の紹介等



本市学校の授業見学や授業参加等



大学教員による本市教員向けの研修や、大学教員や学生による本市学校の授業サポート等



相互交流の取組

連携大学と本市が、相互に協力・支援し合うことで、教員養成の質、及び、本市学校における教員の資質・能力の向上を図ります。

取組 11 相互交流の促進を支援するシステムを構築

公開可能な本市学校情報(大学向け)、招へい可能な連携大学の教員情報(学校向け)をそれぞれ公開しています。

大学と本市学校が協力することで、お互いにとって効果的な活動が生まれます。



取組 12 大学連携だよりの発行

相互交流の事例をはじめ、大学連携に関する様々な情報を記載しています。

「大学連携だより」相互交流事例の紹介

- 第 1 号 本市教員が授業実践力向上の一環として、大学教員の支援を受ける。大学教員のアシスタントとして学生も参加。
- 第 2 号 技能を持った学生が、本市特別支援学校の保健体育の授業をサポート。
- 第 4 号 大学教員が本市小学校教員向けに、次期学習指導要領の方向性やアクティブ・ラーニングについて解説。
- 第 6 号 本市小学校のメンタリングを教職大学院の教員が視察。
- 第 7 号 大学教員が本市教員の授業を見学後、教員心理学のアプローチでアドバイス。
- 第 10 号 大学教員とゼミの学生が小学校個別支援学級の授業補助を行った後、小学校内で大学のゼミを実施。
- 第 11 号 大学教員と二人の本市社会科教員が協働して地理的分野で ESD に関連した授業づくりを実施。
- 第 13 号 短期の学校インターンシップの実施を検討している大学の教員と学生が、本市中学校の授業を見学。
- 第 15 号 平成 29 年度第 1 回横浜市大学連携・協働協議会のシンポジウムで学校インターンシップを通じた、大学、本市学校の双方にとって効果的な 3 つの実践事例を紹介。
- 第 17 号 相互交流を活用した、初任 3 年目研修校内授業研究会を実施。本市中学校と美術大学とのコラボレーションでプロジェクトマップを制作。

本市学校情報 : 横浜市教育センター Web ページ→大学連携→相互交流

大学連携だより : 横浜市教育センター Web ページ→大学連携→大学連携だより

<http://www.edu.city.yokohama.jp/tr/ky/k-center/daigakurenkei.html>



大学と本市の連携を通して

大学からの声

- ◆ワーキンググループに参加したことで教育委員会、校長先生、他の大学の先生方と貴重な協議ができ、教員を育てるということの在り方、意味を考える機会となった。
- ◆できることから取り組む、という横浜市の考え方に賛同できる。
- ◆これからの教育をみんなで考えていく必要がある。
- ◆それぞれの大学が一つの方向に向いてきたと思う。
- ◆大学の教員が変わらなければいけないと思う。
- ◆大学の教員はもっと学校に足を踏み入れた方がよい。

学生の声

- ◆初めて学校体験を行った学校で、自分が「先生！」と呼ばれたときは本当にうれしかった。
- ◆自分が努力した分、児童生徒は応えてくれた。
- ◆魅力ある先生と出会え、教師のすばらしさを感じることができた。
- ◆自分を頼りにしてくれる先生や児童生徒のために、頑張ろうと思えた。
- ◆多くの先生方と関わることができ、様々な指導法を学ぶことができた。

本市学校教員の声(相互交流)

- ◆大学教員の助言により、最新の学術研究成果を基に授業を作ることができた。
- ◆学生の前で授業を行うことで、自分の授業づくりのポイントが見えた。また、学生の疑問に答えることで日々の仕事を見直すきっかけにもなった。
- ◆大学教員・学生と協働し授業づくりを行ったことで、児童にとって、多くの方の支援の中、質の高い学びが得られたことが特に効果的だった。
- ◆交流した学生たちから、たくさんのアイデアをいただいた。

本市学校教員の声(教育実習)

- ◆最近では、教育実習での大学の対応が非常に良くなっている。本市と大学との連携の成果かと思う。
- ◆学校の教員が、なりたい職業と感じてもらえるよう、教育実習生を指導したい。
- ◆自分が教育実習で指導教諭からたくさんのことを学び、教師になりたいという思いが更に大きくなったので、恩返しのため実習生に接していきたい。実習生は「教師」という夢に向かって頑張してほしい。

作成・編集 横浜市大学連携・協働協議会 教育実習ワーキンググループ

横浜市教育委員会事務局 教職員人事部教職員育成課

横浜市立小学校長会・中学校長会

桜美林大学 神奈川大学 鎌倉女子大学 慶應義塾大学 國學院大学 昭和女子大学 星槎大学

玉川大学 東洋英和女学院大学 明治学院大学 横浜高等教育専門学校 横浜国立大学